

## 一橋予想模試② 解答解説

### I

1 村請制の下で、名主などの村役人が百姓に対して石高を基準にして年貢・諸役の割り当てを行い、村高に見合った年貢を村全体の責任で領主へ一括納入し、さらに領主から文書で指示される命令を識字能力を生かして村民に伝える役割を果たしたことから、幕府や藩は農村を百姓支配の末端組織として位置付けていた。さらに農村は、薪や肥料の供給源としての入会地の管理や灌漑施設の管理、および相互扶助の意味の結などが行われる共同体的役割も果たしていた。2 油粕・麦粕などの金肥購入は農村に貨幣経済を浸透させて貧富の差や地域間格差を増大させ、さらに農村を共同体性格から競争的性格へと変容させていった。3 町屋敷をもつ家持であること、および上下水道の整備など都市機能を維持するための町人足役を負担することなどが条件であった。4 肥料確保のための山々の草山化や山間部への新田開発の拡大、また城下町の建設用の木材伐採など。(389字)

### II

1 敵国であったドイツからの輸入が途絶して化学工業の自立が進み、さらにヨーロッパ諸国からの機械類・鉄類などの重工業製品の輸入が途絶えた。一方、ヨーロッパ諸国が後退した中国などアジア市場への綿織物の輸出、戦争景気のアメりカへの生糸輸出の増加、およびロシア・イギリスへの軍需品の輸出が拡大し、日本の貿易収支は輸入超過から輸出超過へ、債務国から債権国へと変化した。2 国体変革を目的とした結社の組織者・指導者に対して最高刑に死刑が導入され、さらに非合法の共産党への加入者の確定が困難であったことから目的遂行罪を新たに設けて支持者・協力者も取締りの対象とした。その改正は緊急勅令を用いて行われたが、その発令権は議会の協賛なしに行使できる天皇大権のひとつであり、議会軽視と批判された。3 プロレタリア文学の代表作の1つで、共同印刷争議における労働組合の闘争および敗北を描いた小説である。4 松原岩五郎。(392字)

### III

1 多くの国が賠償請求権を放棄し、また日本の再軍備や工業生産も制限されなかったから。2 「世界」。3 投資主導型の経済発展が持続し、国内市場の拡大により鉄鋼業などの素材産業が発展し、さらに新興の石油化学がプラスチックなどの新素材を提供した。さらに量産化により価格が低下し、割賦販売制度の普及および勤労者世帯の所得がボーナスを含めて安定的に増加していた。また都市部での人工集中や核家族化による世帯数の増加は市場拡大の水準を押し上げた。4 競争力の強い外国資本の日本進出が、危機感を伴って「第二の黒船」と意識された。証券不況によって株価が低落していたのを好機として、外国投資家から経営権を守るため、および買収の予防措置として企業集団の持ち合い比率が上昇し、六大企業集団が形成された。鉄鋼業界では、国際競争力の強化を図るため、八幡製鉄会社と富士製鉄会社が合併して、新日本製鉄会社が誕生し、三菱重工業も再発足した。(399字)